

しまね学校図書館活用コンクール 応募票

学 校 名	松江市立宍道小学校
学 校 長 名	浜 田 啓 文 印
記載責任者名	
連絡先電話番号	(0 8 5 2) 6 6 - 0 3 5 2

(○) 読書活動	1 取組の概要					
	2 読書活動の資料・作品・写真等					
		活動等の名称	添付資料・作品等	添付数	活動中の写真の有無	
	1	ブックトーク	ブックトーク年間計画 (cf. 運営計画) ブックトーク配布リスト・シナリオ 児童の感想	1 1 2 1 5	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無	
	2	おすすめの本	おすすめの本のリスト 職員室版たより・保護者に向けたたより 児童の読書記録 (本は友だちカード)	2 4 8	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無	
	3	ファミリー読書	ファミリー読書呼びかけの図書館だより ファミリー読書の記録 廊下の掲示板写真	3 4 1	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無	
4	図書委員会イベント (全校集会・図書館まつり)	図書委員会活動計画 (cf. 運営計画) 図書集会活動風景写真 図書館まつり活動の感想と写真	1 1 5	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無		
() 学校図書館 を活用した 授業実践	1 取組の概要					
	2 学校図書館活用教育年間計画 ※どちらかに○をつけてください。 有 ・ 無					
	3 学校図書館を活用した授業実践の資料					
		単元名・資料名	学年	教科	添付資料等	添付数
	1					
	2					
3						
4						

しまね学校図書館活用コンクール 取組の概要

学校名 松江市立宍道小学校

1 応募部門 ※ 応募する部門に○を付けてください。

(○) 読書活動部門

() 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

○子どもの読書活動を支援し、読書の喜びや楽しさを味わわせることによって、望ましい読書習慣を身につけるとともに、豊かな心情を育てる。

○本や学校図書館（宍道小「だんだん図書館」）に親しみ、その楽しさを伝え合うことを通して、情報を伝えたり自分の考えや思いを表したりするための表現力の基礎となる言語感覚を磨く。

3 実践の概要 （学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

(1) 本校の実践の特色

- ① 全体計画・図書館経営計画・運営計画・読書指導年間計画・各学年の図書館活用教育年間計画等の計画を立案し、共通理解の元に学校全体で取り組む。
- ② 司書教諭・学校司書・担任・保護者・地域のボランティア・児童図書委員会等、それぞれの特性を活かし、連携をとりあい、読書指導・活動を行っていく。
- ③ 大人と子ども、子ども同士などのコミュニケーションを大切に、本と人を結ぶ豊かな読書体験を重ねていく。
- ④ 読書センター・学習センターとしての学校図書館の機能が発揮できる環境・蔵書整備を行う。

(2) 実践の様子

① ブックトーク （司書教諭が全クラスへ。授業後は担任がクラスに働きかける。）

読書意欲を喚起するために、司書教諭が授業を行っている。学年の発達段階、国語・総合的な学習テーマとの関連、興味を持つテーマ等で実施した。選書にあたっては、子どもたちが満足感を得る心に残る一冊となる本を第一と考えた。また、本校図書館の蔵書の活用をすることも考慮した。

1年生 テーマ 「へんし〜ん I」

2年生 テーマ 「へんし〜ん II」

3年生 テーマ 「楽しい商売 不思議な商売はいかが」

4年生 テーマ 「旅に出よう 〜一人旅、二人旅、それとも仲間?〜

5年生 テーマ 「宝さがし」「食べること」

6年生 テーマ 「ヒロシマへ 修学旅行に行こう 〜平和学習〜」

「世界は謎にみちている」 「12歳の夢 どんな夢?」

② 宍道小おすすめの本 （担任を中心に、各学年・クラスでの取り組み）

単に多読奨励ではなく、教員から子どもへ薦めたい本を選書し図書館にコーナーを設けている。赤いりんごシリーズは低・中学年は10冊、高学年は5冊である。金のりんごシリーズは、H21度秋に全学年10冊ずつ追加。新学習指導要領にあわせ、詩・昔話・空想物語・現実的な物語・知識の本・紀行文などの視点から構成している。リストは全児童が持ち、クラスでも掲示したり、本の紹介をしたりするなどして読書の奨励をしている。すべて読み終えた子どもには、赤いりんごシリーズ・金のりんごシリーズそれぞれに、図書館から「読書かがやき賞」を与える。また、図書館前の掲示板の「読書の木」に自分の名前を記入した赤や金のりんごを貼り、読書の木が実っていく様子が見られるようにしている。読書記録や感想カードを書くことも奨励している。

③ ファミリー読書（家庭との連携と読書の習慣化）

読書習慣を形成することがねらいである。家庭の理解と協力を得ることができるようファミリー読書に取り組んだ。毎学期1週間、生活習慣の向上をめざして行う本校の「がんばりっ子7」の取組の中にメディアの利用制限もあり、その時間を積極的に読書にあてるよう奨励した。ファミリー読書はこの期間と同時に実施した。今年度初めての試みなので、ファミリー読書のやり方の例、記録用紙の書き方、記録の紹介など、保護者向け「だんだん図書館だより」で啓発、掲示も行った。

④ 図書委員会活動における読書イベント（児童委員会による全校への働きかけ）

ア 全校集会における劇発表・クイズ・本の紹介

本への興味喚起と図書委員会活動PRがねらいである。図書委員が選んだ本を自分たちで脚本にし、図書委員全員で劇を行った。劇で使用した本や小道具はだんだん図書館内に展示した。

イ 図書館まつり

図書館に親しみを持つこと、多様な本を身近に感じることをねらいとしている。

- ・「早口言葉にチャレンジコーナー」（言葉の本展示紹介）
- ・「工作コーナー」（作家：木村研さんから図書委員が教わった工作を図書館で伝授。著書展示）
- ・「しおり作りコーナー」（本の中の好きな絵を写すなど自分のしおり作り。）
- ・「読み聞かせ」（大型絵本を読み聞かせる。）
- ・「だんだん図書館ウォークラリー」（委員会児童作成の図書館クイズ。低・中・高学年用3種。）

⑤ その他

- おはなし会（ストーリーテリング）…全学年毎学期1時間（国語）（司書教諭・司書・担任）
- 関連図書リスト作成…教科書単元と同テーマ・同作者の本など（司書教諭・司書）
- 朝読書の充実…共通理解と情報交換（司書教諭・担任）
- 読書記録「本は友だちカード」…読書生活の充実。各学年で準備。（司書教諭・担任）
- 「心のにこの一冊」…全校児童が来年度の同学年へ向けて、おすすめの本の紹介文を書く。
クラス回覧後、図書館内に展示。（司書教諭・担任・司書）
- 朝の読み聞かせ…月に2回。全クラス一斉に。読み手は地域の方。（読み聞かせ担当）
- お昼のおはなし広場…月に1回程度。児童は自主参加。（司書・保護者ボランティア）
- 市立図書館移動図書館車「だんだん号」貸出利用…各クラスの児童が選書し、クラスで読書。
- 環境整備・職員研修・職員作業（司書教諭・司書・教職員）

4 実践の成果

① **ブックトーク** これまで手に取ることがなかったような本に読書の興味が出、じっくりと息長く読む児童が増えた。また、全クラスに行くことで、児童の間に共通の読書基盤が生まれつつある。事後については、担任との連携も必要である。読書指導への理解と協力が得られるようになってきた。

② **央道小おすすめの本** 学年によってばらつきはあるが、達成率は2月で40%である。昨年度に比べ、2.5倍の伸び、特に高学年が向上した。担任からの奨励や子どもたち同士で本をすすめあう姿が見られるようになってきた。ただ、本の不足から読みたいが本が回らず、順番待ちになった学年もある。

③ **ファミリー読書** 保護者世代に抵抗があると予想したが、「このファミリー読書週間に親子で読む、親子で話しあう良さを感じ、これを機会に暮らしを考えたい」という前向きな言葉をいただいた。

④ **図書委員会活動における読書イベント** 図書館は身近で楽しい所だと感じていることが、子どもたちの姿から伺える。また、図書館で何をしているのだろうという期待感も生まれた。図書委員との親しみが増し、カウンターで相談にのったり、返却を手伝ったりするなど、双方に信頼関係が生まれた。

⑤ **その他** 各種の計画や、保護者向け図書館だより、職員室版図書館だより、日頃の職員コミュニケーションにより、それぞれの活動がうまくつながり、子どもの読書体験を豊かにしていった。

まとめ 静かにじっくり聞き、読書し、発表し合う子どもたちの姿に手応えを感じている。読書は子どもたちの基礎体力とも言える。大人との信頼関係を基盤にし、本と人を結ぶ読書活動を継続していきたい。